

平成30年度 観光商材開発支援事業

1 目的

市内企業の外国人観光客向け商品開発に係る経費の一部を補助することにより、外国人観光客による消費拡大を促し、市内企業の販路拡大等につなげることを目的とする。

2 補助対象者

札幌市内に本社(本所)を有する外国人向け観光商材(※)の製造者となる中小企業。または札幌市内に本社(本所)を有する、観光商材の企画・販売者となる企業(大企業を含む)。ただし、企画・販売者は北海道内に本社(本所)を有する中小企業に対して観光商材を委託製造させること。

※「観光商材」とは、外国人観光客を対象とした、商品(食品、雑貨・工芸品、土産品等)とする。

3 補助対象事業

外国人観光客への販売拡大を図るため、観光商材の開発を行い、流通させる事業

4 補助内容

補助対象経費の1/2以内、上限額100万円を補助。

【北海道大学・北洋銀行との産学官金連携により、商品開発や販路開拓への支援を実施】

- ・開発期間中に、外国人の嗜好等の調査を目的とした留学生によるアンケート。
- ・商品のブラッシュアップを図るため、開発商品の専門家個別相談会。
- ・新商品の販路開拓支援として、「第25回グルメアンドダイニングスタイルショー春2019」に共同出展。

5 補助件数

7件

(平成30年度採択案件)

- 雑貨等・北海道産牛乳原料を配合した化粧品の開発(株式会社小六)
- 食品・北大ガゴメ昆布を使用したインバウンド向けオーガニックキャンディーの開発(株式会社アイ・ティ・エス)
 - ・北海道産黒豆を使った黒豆茶のお土産開発(池田食品株式会社)
 - ・「札幌発の日本酒」とお土産用パッケージ開発(株式会社Kカンパニー)
 - ・残さず食べる食べるを残す「北海道乾燥野菜プロジェクト」次世代に食べるをつなげます。(株式会社のこたべ)
 - ・さっぽろ限定幻のイチゴ、さとほろを使用したかりんとう開発と販売(浜塚製菓株式会社)
 - ・鮭トバダイスカット販売促進(丸本本間水産株式会社)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 製造費 ■ 機器費 ■ 検査・認証費 ■ マーケティング活動費 ■ 旅費
- その他市長が適当と認める経費

7 募集期間

平成30年6月1日～6月29日

8 申請の受付・問い合わせ

経済観光局国際経済戦略室経済戦略推進課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL:011-211-2481 FAX:011-218-5130

URL:<http://www.city.sapporo.jp/keizai/tradeinfo/kankoshozai/kankoshozai.html>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社アイ・ティ・エス

- 所在地／札幌市東区北23条東15丁目5-25 ノーヴル23 2F
- TEL／011-743-1707 ●FAX／011-743-1708
- 代表者／代表取締役社長 下川 俊克
- 設立／1997(平成9)年5月20日 ●従業員数／15名
- URL／<http://www.it-systems.co.jp>

建設コンサルタント、建設情報サービス、カルチャースクール運営など複数の分野に事業を展開。カルチャースクールで開催している介護予防プログラムは、江別市の地域介護予防活動モデル団体支援事業に選定されている。

北大ガゴメ昆布を使用したインバウンド向け オーガニックキャンディーの開発 ～異業種からの参入、新しい北海道土産の開発に挑む～

特別な素材で、お馴染みの食品を

がごめ昆布に含まれるフコイダンには、免疫力を高めて風邪などを予防するほか、さまざまな健康効果が発見されており、近年、研究が進んでいる。北大ガゴメ®は、北海道大学水産科学研究院が開発した独自の方法で養殖されるがごめ昆布である。

アイ・ティ・エスの下川氏は元システムエンジニア。建設土木分野で活躍する大学の先輩からの紹介で、北大ガゴメ®による地域活性化プロジェクトを知り、この素材を使用した商品開発に携わるようになった。食・観光分野に関しては素人だった下川氏が、「商品化して売れるのだろうか」と悩んでいたところ、アドバイザーの支援も受けられるこの支援事業を知る。「第三者が商品化の価値を認めてくれるなら、やってみよう」と決意し、北大ガゴメ®を使用した飴の開発に着手した。

幾多のハードルを乗り越えて

始めてみると、未知のことばかりで何一つ予定通りに進まなかった。コンブ粉末の含有量、内容量、値段の決定、大きすぎる生産ロット、必要なJANコードなど、次から次へと現れる関門。それでも、周囲の助けやアドバイザーの知識を借りて、「北大がごめ昆布飴」は完成した。昆布の風味が甘さを包み、さっぱり

とした後味に仕上がっている。ゆっくり舐めると「がごめ昆布」らしいとろみも感じられ、留学生フェアでの試食会でも好評だった。昆布をデフォルメしたパッケージも自信作。

1袋50g入り550円(税抜)で、まずは北海道大学エルムの森ショップでの販売を予定。商談の機会を得るため、東京で開催されたグルメ&ダイニングスタイルショーにも出展した。今後は、インターネットなどを駆使したデジタル戦略と、土産物店や観光施設などを一店一店回って営業するアナログ戦略で販路開拓に挑む。飴を通じて、北海道での旅を元気に楽しんでほしいという思いも広まるだろう。

いろいろな方々からのご協力に 感謝でいっぱいです

補助金というきっかけがなければ、この事業には着手していなかったと思います。アドバイザーの派遣や東京のBtoB展示会への参加など、開発から販売までトータルに支援してもらえて、ここまで来ることができました。



代表取締役副社長
下川 紘資



▲素材の情報もしっかり伝える



▲完成した“北大がごめ昆布飴”



▲留学生フェアでの試食会